15.「光を求めて」

東京へ戻ってからすぐに、資生堂のコマーシャル撮り、ディズニーランドのポスターのイラスト描き。レコーディングが逼迫している最中にも、YUKIはそういった仕事を並行して行っていた。

バンドは「ミュージック　ファイター」のプロモーションでテレビ番組にも出演している。

そんなある日、マネージャーの柚上が段ボール箱をいくつも抱えて、YUKIの部屋まで運んできた。

「えっ。ユズ、こんなにたくさんあったの？」

「誕生日プレゼントとも全部まとめて入れておきましたから」

なかにはファンからの手紙やプレゼントがいっぱい入っている。

みんな喉の手術のことを心配してくれていた。詩を綴ってくれている手紙もあった。JUDY AND MARYのどこが好きかを、便せん何枚もにわたって事細かに丁寧な文字で記している手紙があれば、学校生活や友達や好きな人のことを書いたかわいい内容のものもたくさんあった。

かつての自分を見ているような、けなげな内容の便りを読んでいると、自然と頬がほころんでいく。何より、早々と「ミュージック　ファイター」を耳にした感想を伝える手紙にYUKIは励まされた。

いろんな色のペンで、さまざまな文字で書いてある、数えきれないほどの「誕生日おめでとう！」——その一つひとつを目にするうちに、YUKIはたとえようのない力を帯びていくのが自分でもわかった。

この数ヵ月、1グラムも持てなかった勇気が湧いてくる。

誰もがそうであるように、YUKIもまた完璧ではない。

春がやってきた今になっもまだ、ロンドンで感じたあの喪失感に彼女はとらわれている。自分でも恐ろしいほど、酷い顔をしていることがきっとある、とYUKIは思っていた。誰にも見せられないほど無気力な顔をした自分が、この冬、確かにいたのだ。

（そんなことも何もかもが、くるくる一巡して歌になっていく。そんなあたしの歌を待ってくれる人がいる。そんなあたしの歌で、生きる勇気を持ってくれる人がいるなんて。……なんだか不思議だ）

３月、東京へ戻ったYUKIは、スタジオ・ワークよりもボイス・トレーニングを集中して行っている。レコーディングのスケジュールは押しに押していたが、周囲はYUKIの回復を静かに見守った。「BATHROOM」は「MIRACLE DIVING」のころからあった作品で、すでにレコーディングは終わっていた。「LOVER SOUL」もシングル・バージョンでいく。「散歩道」「ステキなうた」は喉の手術をする前にレコーディングしたテイクを収録することに決まっていた。

４月に入り、「ジーザス！ジーザス！」「ランチ　イン　サバンナ」「ナチュラル　ビュウティ’98」「グッバイ」と２週間の間に4つの詞をまとめ上げ、ボーカル・ダビングも進んだ。

「ミュージック　ファイター」「手紙をかくよ」はすでにロンドンで仕上げている。

残るはただひとつ「イロトリドリ　ノ　セカイ」だけだ。

もともとこの曲は、TAKUYAが自分で歌うために書いていた作品で、それをJUDY AND MARYで歌ってみたいと提案したのはほかの誰でもない、YUKIだった。しかし詞が出来ない。何度か書き上げたものの、ロンドンでのあの暗く寂しい自分の心情を吐露している内容に過ぎないと、YUKIは自分でも感じていた。

東京に戻り、これでどうだろうとYUKIがようやく書き上げた詞を前に、メンバーは厳しかった。

「YUKI、ダメだよ。この詞じゃあ、レコーディングできない」

「少なくとも俺は、YUKIがここに書いているような気持ちで叩いてないよ」

TAKUYAだけでなく、作詞には口を出さない五十嵐までが、首を傾げる。OKは出ない。

（どうしてダメだろう。ロンドンで書いていたものに比べれば、もう全然いいのに。っていうか、あたし、この詞、好きなのに）

漆黒の迷いの淵から、YUKIはまだ抜け出せていなかったのだろう。

ホテルに缶詰めになり、TAKUYAが一字一句、細かくアドバイスしてくれるものの、YUKIは彼の言っていることが難しくてよくわからない。TAKUYAの選ぶ言葉は、YUKIのそれとはまったく違う世界に存在するもののように思えてならなかった。

希望のかけらを求めて、腕を差し出す。光のないこの世界から抜け出したい……。

<アイニ　ツマヅイテ　ダイタ>、歌の冒頭にあるこの一節だけが、原案から残った。いや、残した。

「これだけは、歌いたい」

YUKIは最後まで、押した。

ただし、それ以外はすべて、TAKUYAに委ねた。

「イロトリドリ　ノ　セカイ」は、TAKUYAが書いていた詞でレコーディングすることになった。

「乾杯!」

シャンパンを開けて、みんなでグラスを合わせる。

4月18日、目黒にあるドッグハウススタジオでミックスが終了した。このまま、一生終わらないかもしれないと思った長い長いレコーディングが終わった。YUKIは、ただ、安堵した。

<今日、ミックス、終わる>　日記には、そうとしか感想をつけていない。冬のロンドンから4ヵ月、アルバム『POP LIFE』が完成した。